

# 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 12 月 19 日	
所属部局・職	霊長類研究所社会生態分科・博士後期課程学生
氏名	石塚真太郎

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
香川県小豆島
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
小豆島のニホンザルにおけるオスの繁殖戦略についての調査
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 12 月 17 日 ~ 平成 30 年 12 月 18 日 (2 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
銚子溪 自然動物園 お猿の国
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の調査の目的は①調査群の識別個体を確認すること、②赤ん坊から DNA を採取すること、③種子散布の共同研究用の糞を採取すること、④腸内細菌の共同研究用の糞を採取すること、⑤イノシシの糞試料採取の可能性を探ることであった。①については、前回と比べて群の構成に大きな変化はなかった。昨冬から続いていた大人個体の消失は、ひと段落したように思う。②については、前回毛を採取できなかった赤ん坊から毛を採取することを予定していたが、その赤ん坊が死亡していた。③④については、問題なく遂行できた。⑤については、3、4個の試料を発見することができた。一方で、イノシシは群れを作らないため、同一個体由来である可能性が高いように感じた。それゆえ性偏向分散を調べるには、別の方法を考える必要があるように感じた。ニホンザルに限らず、小豆島に生息する様々な哺乳類を明らかにしていきたいと思う。

野生のイノシシ
<b>6. その他</b> (特記事項など)
本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行できました。PWS プログラム、銚子溪自然動物園お猿の国の皆様に感謝申し上げます。